

恩納村内のおススメ地質観察スポット！



石英斑岩の説明をする
宇佐美学芸員(中央)

1月18日に第16回沖縄県立博物館・美術館移動展の関連催事として、村内でのジオツアーが開催されました。ジオツアーとは地球科学等の専門家による解説を聞きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを読み解くツアーです。当日は沖縄県立博物館・美術館で地学を担当する宇佐美賢学芸員、地質担当の新山颯太学芸員による解説を聞きながら、観察地点を回りました。これまで学芸員のはなしでも紹介したことがないスポットもありましたので、ご紹介します。

①名嘉真海岸

名嘉真集落の南側海岸では沖縄島最大級の貫入岩体である「石英斑岩」の露頭を見ることができます。海岸に出ている部分だけでも迫力がありますが、名嘉真集落の南側から県民の森の熱田岳頂上にかけての一带から北東方向にかけて、幅約1.5kmの岩体が6kmほど続いています。この石英斑岩は約1千万年前にできたと考えられています。注目点としては、この石英斑岩に含まれている鉱物です。特に名嘉真の海岸に露頭している部分ではキラキラと輝く黒雲母とそろばんの珠のような形をした高温型石英を観察できます。また、雨や風、波、紫外線などによる浸食で風化が進んでいる部分ではたまねぎの皮のようにはがれていく「たまねぎ状風化」も見られます。



名嘉真の石英斑岩



黒雲母(黒色の粒)



高温型石英の粒

②ナビビーチ横

ナビビーチ西側の浅瀬では、マグマが冷えて固まった緑色岩とその上に乗った琉球層群(琉球石灰岩)の不整合面を観察することができます。この地点で特に特徴的なのは、「枕状溶岩」の構造を一部残す緑色岩が見られることです。この枕状溶岩とは海底で流れ出したマグマが固まってできる際に、海水に触れた表面だけが急激に固まると、中から押し出されてくる新しいドロドロのマグマがまた流れ出すということが繰り返され、やがて枕のような形の溶岩がいくつもできます。

また、緑色岩の上に乗っている琉球層群(琉球石灰岩)中にはオパキュリナと呼ばれる大型の有孔虫の化石が含まれている層を見ることができます。

こちらはナビビーチからすぐに行くことができるため、観察におススメのスポットです。



ナビビーチ西側の緑色岩と琉球層群



枕状溶岩



化石の説明をする新山学芸員(中央右)